
の前の静けさ

平賀 暎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

の前の静けさ

【コード】

N3504L

【作者名】

平賀 暎

【あらすじ】

その日は、いつもと同じ朝からはじまった。今日もそこには変わらない日常があると信じていたが……。

いまさらこんなことを考えても無意味かもしれない。もうなにもかも手遅れなのだから。

その日は、いつもと変わらない朝からはじまった。冬だから当然だが吹き抜ける風が少し冷たかったことを覚えている。今でも思うこの時後に起こる事を知っていればどうにかできたかもしれないと。

いつもより遅くに家を出た。とはいえ、ゆったりと歩いて遅刻しない時間だった。しかし、今日は通りに自分と同じ学生がほとんどいなかった。普段この時間帯ならもう少しいいはずだが。違和感を感じた。感じたのだが、それがなんなのかこの時はまだわからなかった。

校門についたときも、違和感があった。今度ははつきりと。殺伐とした雰囲気は漂っていて、みんな硬い表情をしていた。まるでこれからなにか起こるかのようになり、起こる事を知っているかのように見えた。

家からここまで知り合いに一人も会わなかったのも変だった。いつもなら、最低一人は知り合いに会って一緒に通学している。こんなことは今まで一度もなかった。何か嫌な予感がする。

靴を履き替え教室に向かいながらもずっと考えていた。いったい何なんだ。この胸騒ぎは。これから何が起こるといふんだ。教室の扉の前で立ち止まる。心なしかいつもより扉が重い気がする。

心配しても仕方ない。思い切つて扉を開けると……。

「おはよう。こんなに遅く来てよかったのか？」

いつものメンバーがいた。

「そんなに遅かったか？ まだ5分も余ってるけど」

時計を見ながらそう返事をする。心配して損した。ただの気のせいだよ。

「いつもはそうだけど。今日……」

テストじゃん。

思い出した。だから、今日は朝からみんな緊張してたのか。このテストって県内でもかなり難しいって有名なんだよな。で、こいつらは早く来て勉強してたのか。

「なんでメールしてくれなかったんだよ」

「いや。したんだけど。返事がなかったんだよ」

そういわれて携帯を見ると電源が切れている。

くそ、こんな時に限って。

思わずため息をつく。

終わった。今更あがいてもたかが知れてる。携帯の電源さえ残ってれば。いや、いつもどおりの時間にくれば、少しはあがけたのにも……。

いまさらこんなことを考えても無意味かもしれない。もうなにもかも手遅れなのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3504/>

の前の静けさ

2010年10月12日20時47分発行